

学びの広場

生涯学習推進大会開かれる

去る2月4日(土)、展示ホールにおいて、第23回生涯学習推進大会が開かれました。当日は2部構成で、160名もの参加者があり、盛会裏に実施されました。



12名2団体の受賞者

第一部 教育委員会表彰

多年にわたり、松田町の教育の振興と発展に貢献された方々の功績に賞状と記念品が贈られました。出席された9名の方一人ひとりに安藤文一教育委員長から手渡されました。受賞されたのは、次の方々です。



祝辞を聞く受賞者の皆さん

学校評議員―大館敏雄さん、和田健嗣さん

内藤恵子さん

スポーツを通じて青少年の健全育成―天野力

さん、浅川五男さん、尾崎正文さん、水野洋

さん、澁谷諭司さん、葛山高弘さん、杉能均

一さん、近藤信一さん、高橋清一さん

災害対策や親水広場の維持管理―松田イレーン

サッカークラブ父母会(代表 前田裕史さん)

総合型地域スポーツクラブ設立に向けての活

動―松田町スポーツを楽しむ会(代表 北島

重男さん)

ゆったりした動きと華やかさ

第二部の1 活動発表

学びの広場9月号の「団塊さん、いらっしやい」に掲載された「大極拳・西湘サークルまつだ」の活動が披露されました。「楽しく学んで健康長寿」のテーマでの発表でした。太極拳の実演

の次にレベルア

ップした扇を使

った演技が披露

されました。

講演会講師の

寺脇教授から会

の理念「活至老、

学到老(中国読

ではフオアター

ラオ、シェーター

ラオ)「生きている限り楽し

く学び続ける」は、「生涯学習」の考え方その

ものであり、しかも、濁音「が」が2音もある

日本語と違って耳にも心地よく響いたとの

コメントがありました。



動きはゆったり 気は長く

いよいよ生涯学習の出演

第二部の2 講演会

次に京都造形芸術大学の寺脇研教授による演題「成熟社会における生涯学習の勧め」の講演がありました。その一部をご紹介します。

25年前の世の中

氏が25年前に「生涯学習」を世の中に広げようとした時に、「障がい者のための学習」と

誤解された。公民館や図書館は、土日は閉館であった。ちよどバブルのころであり、自分さえよければよい」という大学生が多かった。経済的には豊かであったが、差別や偏見が今より蔓延し、ボランティアをやる人も珍しかった。定年退職した男性が生きがいを見失って「濡れ落ち葉」とか「わし族」という言葉が揶揄的に使われていた。このころ、大量退職があったら大きな社会問題になっていたであろう。

生きていくのも楽しくない、ヤルコ...

働くことだけが生きがいであった父親が、定年退職した途端、毎朝起きたらため息をついて食卓に向かっていた。「生きていても楽しくない。さりとて死にたくない」とも言っていた。結局、当時流行していたファミコンの「将棋ソフト」を氏が送ったところ、夢中になり、「晩御飯ですよ」と母親が呼んでも「今、将棋をやっている最中だから」と好きな将棋に夢中になっていた。

定年後、生きがいを見い出せなかったが、将棋という楽しみが見つかった。楽しいことをやる生きがいは、死ぬまで萎えることはないといことを父親は示してくれた。

自分の楽しみを持ちつつ、他人のために

阪神淡路大震災の時に、多くの若者たちがボランティアに行った。今回の東日本大震災では、若者だけでなくサラリーマンも夜行バスを利用して週末に参加した。

25年前と比べて、差別や偏見も少なくなってきた。「いろいろな人がいていいね」という

「共生社会」になり始めている。これは「生涯学習」の考え方が社会に浸透してきて「自分の楽しみを持ちつつ皆のため、社会のため何か働きたい」という社会に切り替わっていく中で生まれてきた現象である。

いよいよ生涯学習が社会全体の行方を左右する時がきている。



講演する寺脇氏

おめでとうございます

各種コンクールに入選した児童・生徒

今年度もたくさん子どもたちが、積極的にさまざまなコンクール・コンテストに応募しました。その結果、神奈川県代表として次のみなさんが素晴らしい評価を受けましたので、紹介します。

入賞

平成23年度 第40回神奈川県文化財保護ポスター

わたしたちの文化財部門



大雄山最乗寺



松田中 2年 志村南美さん

佳作

平成23年度 神奈川県歯の衛生に関する図画・ポスター

小学校5・6年の部



寄小 6年 間野風花さん



優秀賞

平成23年度 神奈川県第25回ともしび絵本コンテスト

絵本の部(小学生)



BAND-AID



松田小 4年 二宮瞳子さん

一等

第49回 中学生作文コンクール

都道府県別生命保険文化センター賞



松田中 2年 折田玲奈さん

人生のお守り